

人用品 品 新京都座通 D 商店 電話三〇九二番

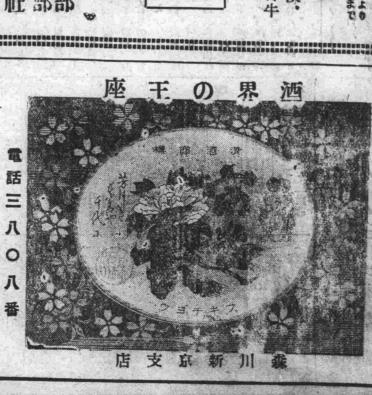
> 指定問屋 直 輸入





健康の要素の 凡でを含有するは 牛乳の他にはあ

科的原花外內病科科科 開業擴張 在門病科 科 科



京

日時一月 世出北縣 一日間 午前十時上日 秀湖、翠岩、華峰、弘雲外七十点
竹波、大觀、淸香、牧羊、光豐。 啓牛
竹波、大觀、淸香、牧羊、光豐。 啓牛 子

花鳥、銀砂子、金銀モミ街立二十點 書畫美術展即賣會 新京日日新聞社增三洋行美術部

曙

六〇六番

每日晝夜

銀器

春耕資金貸出

个合時打后

崖旭

に大連に名類のた

皆様人の映 は一大変 に一大変 に一一変 に一一

理想の 良人 吉 年 停 子 女

が作の持つ味る可成り出て にの持つ味る可成り出て は富沙かすきころがある にの持つ味る可感の夢子主演

入場大歡迎●

後援

主催

診療受付

見科科

杏林堂醫院

正午より午後三時まで

闘院御知らせ

新京藩萊町一丁目

松院主崎 崎科 義醫

廣院

上牛は素の康健 品 牛乳の御用は 皆様の

二〇八八

三宅牧場

りません

人見習看遊婦人用×

入院 新京永樂町三丁目

=

町

Spile

帝は城切界記官長をして政友の混倒を來 會に於て政府の豫明せざる軍會に於て政府の豫明せざる軍 職間型題に関し

を思請する等傾重にその對答問の島田總務に對し之が善應 現内閣の二 五日の貴衆

を期して慎重之が協議をなし首脳部は其動策に再高遠漏なき首脳部は其動策に再遠漏なきが勢が察知される折病愈よけ形勢が察知される折病愈よせ形を徹底的に利明せんこする

の誠意を披瀝せばさした粉刷のまで様切丁寧に答響になる。 して充分なる警戒を 事の推移を見 七四日の下

取の好況に乗つて出來た泡沫 なしさみてゐるから、結局三 なのでこの際整理せわば好機 今議會に現はれた

軍民離間問

に於て突扼安藤正純(政)氏(東京國猫)廿四日の衆議院 一火芸二 家民際間間 ※ 大芸二 ・ な切られた

内田氏海相と

騎打ち

海軍條約

問題を提げ

市滿製糖

遂に整理か

めてゐる際であり、且禰州新 離離水港製膳、日本銀行、滿 本社工場及び戦闘の分工組織

分につき最早猶餘を與へる

新

京

形よ領算糖會に移るこさを貢問戦の舞臺は二十六日よ

十六日より

たが耳の

光陣

「東京國通」衆際院に於け

氏の名を以て來る一月三十日製膳會社は現常務際尻彌太郎

飲置のま、になってるた南蒲 整理も復活の見込みもつかず(大連國通)十餘年休業の儘

元計書は現在迄に第一次第一次第一

昨日

の衆議院本會議

相雲順の支出を

野正剛君

一時間に三る長廣舌

孫軍李崗堡を

占領尚進擊中 寧夏の危機迫る

ては一切の事實を舉けて納民より見ても相當考慮する必要に應酬を頼けるは國際的影響 さし、此の問題に就いて徒ら海南相の答辯は未だ手ぬるし 果然各方面に波紋を中ず の前にぶちまけ一戦 行は注目されて居る 一覺悟一

その態を

栽培條件の不適か6原料難は 東京菱歸朝するこささ港日中の趙欣伯氏はご

希崎びてしまつたもの ではまに製しても

第5でし 一月一日東京發 一月一日東京發 人伯氏は二月1日

大一九、三三四(弗)

一、金二十八萬九千七百八十二三國五十錢七厘

「東京國通」 南米移氏の父ミ して知られてゐる南米拓殖智 組をひつさけ殖氏事業の第一線に立つべく二十五日午後九時東京輝麓第十三回目の波米 の途に就いた

「大連認通」正隆銀行では來

5二月九日午前十時より同行に於て、定時株主總會を開催

左配籍件を暗誦承認を求める

下・昭和八年下半期營業報告

書・財産目録、貸借樹照表

損金計算承認の件
一、金十七萬二千五白六十五

圓二十五銭

南米へ

三四年より三五年に至る か下院本質額を増過点を か下院本質額を増過点を でに適附された同僚算案

新子誠、同様本w二氏任明 新子誠、同様本w二氏任明 情丁に付改選の件

十六日着任挨拶に來社した

▲高女垣氏(哈市町で葡萄) 二十五日午後三年二十五ヶ 着哈市から 金原夕佐(毎丘ペンピン憲兵 総特高科長)が前八時三十 分数ペンピンへ

米國海軍發

数に遊られ赴任の途についた。中新京師鏡列車で日満宮昆多

一九三四年より二 海軍職算案は二十 海軍職算案は二十 二八四、七四七

二月九日開催

產金會社

三月中には成立

新泉販賣事務所 登原

經濟欄

笠原 修二

海外經濟

先大九四三二當 月月月月月 限限限限限限

軍經常費の外に大時備砲

計 一、金四十六萬二千三白四十 八國七十五錢七厘 此の處分 此の處分 此の處分 此の處分 此の處分

代からの恩師である、陳竇琛氏を决定、師傅なる文字を中止へられるところによれば、日本からの招聘は中止し、天津時かねて瀛洲國に於て研究されてゐた執政の師傅については傳 野、石本、各部除参謀、獨立のため來京中の久納、加納、飯のため來京中の久納、加納、飯 長は二十六日午前七時前列車を書間に出席した高山新京署の待遇改善打合 多謀点、部隊長 等を招待

太傅の稱號を用ふ



1800000円

官が、官邸に一同を招待する人を招待年経を共にした、又人を招待年経を共にした、又中偏除長、直轄部除長等十六

目睫に迫り

支那側記念大會準備中

名門子弟の

油

五四三二一現 月月月月月 限限限限限物 ● 高 집골증후 | 중요술 | 송

各地市場

本ニール 芸

株 110000

新京市况

0000 00

六五四三二現 五四三二一袋 月月月月月 月月月月月 限限服服 物 限限限限限及

を開け軍人の政治師典を認 を開け軍人の政治師典を認 りるが加き口吻であったが 質職首相さの間に更に質疑應なし、それよりか川君(民)さ はこを何さみるか

互個に際の時

さ述べい 陸村又

間與を認める意味では

府に痛烈なる攻撃を放ち、それより財政問題に及び 危機は一九三六年さ限定されず之に對應すべく割明的 要革を要す、現に我貿易は ブロック經濟の一撃に遭ひ 今や輸出統制の已むなきに 至り、やがては生産統制な もんさしてゐる、生産統制 を大衆の福和に合致せしむ る道如何、其處に金融統制 を大衆の福和に合致せしむ る道如何、其處に金融統制 を大衆の福和に合致せしむ

「上海殿通」上海事塾二周年に出る日が日睫」迫り、支那側では配念大會を催す準備中では配念大會を開す、支那側では配念大會を開す、全市の各機関、各級店に各會の代表を指け、又上海事塾に於けるを掲げ、又上海事塾に於けるを指げ、又上海事塾に於けると記ささなつてある貨事会に対けるここさなつてある貨事会に対けるとこことなってある貨事会に至った航友協會は民衆の答応を報酬の資際でいる。 當日は戒嚴令を布き 議職外事課、亞細亞係の間を 中一千二百名、 最無関係の間を 中一千二百名、 最無関係の 中日の東京留學生一千四白三 名を早くも突破して居る有様 でとの分では四月までには更 に被号を強想され支那留郷生二 の全盛時代だつた明治四十年 の全盛時代だつた明治四十年

赤化事件 判决言渡さる

軽く釋明。之にて小川君質

に午後六時年、それより齊 時間半に亘り長廣

70 り扱けなければならねさればなられる。 か一致に依つてこの離局を動にない全滅氏の協

焼却合下る

村島地空通便新建小人数 村島地空通便新建力の付い これが、水道其の他諸

在

▲坂本少佐(華天惠兵隆)二十 五日午前十一時需吉訪から 五日午前九時養華天へ 五日午前九時養華天へ

會に出席の営本會師も委員會は各関僚が栄講院の初輩集總

けふの貴院

極立に就て海相さ一騎打を

研究してゐる

ポーの軍

際の空軍の競逐で我對第は 際の空軍の競逐で我對第は

を はないであらうが如何、 ではないであらうが如何、

原口君 現在の國際情勢より間を打切る、原口君(吹)登壇

も度れず何者も偉!

米韻場騒然たる裡にお自邸から各大臣にお自邸から各大臣に

猫洲國の

田里生 「東京國書」 8 演の提供に報 いてB支額係と新く常認に使 したので四月の新島期を整へ したので四月の新島期を整へ

察機器を設ける掌志な く中行政的中司法的訴 米國の聯邦重架委員會

上に立つて軍縮條約又は會大角海稍、頭防上の安全闘のこれに對し

更に財政問題。經濟問題に及

軍人の政治協與並に政治論

資本さなつて活動するから

論を述べいそれよ

十年度に行は中で云ふ意味

は勿論だ、然し観力如何を は勿論だ、然し観力如何を は勿論だ、然し観力如何を 批判する歌は禁ぜられてる

攻層問題に含及。轉じて支那

駆けて雷動の原信を買した肌卒事業に米凾賞本の殺到

は北五日午後一時廿八分開會(東京國曲)第三日の衆議院

さ述べ、次いで軍規問題に及

主義を強化せんさするか、軍部は現在資本

る飲や6ね方が良い こ思ふ

一年や二年増税を延期して

小川君亦農村問題で肉迫

第一回

第七回中等校

月

一月二十七日午後七

一十八日のうち休みが十日 ノラン作成で大頭痛

四本願寺日曜

見込であるさ 滿洲帝國々民歌

事になつた。大典記念事業は一条 記念事業の一つ まして「満州帝國々民歌」歌詞で、満文 を渡く金浦に懸賞募集する 各方面に於て種々計畫されて

郵送印刷物の檢閱

初日は好成績

主観「温繁の思想」に就て 第二回佛典研究

御文第二 ・ 光岡主任布教使安心立命の風光 岡田布敦使

めり、宜撫の命もすでに十

八張振道(三七)が東北 車橋司令部附の肩沓を有す

突留め逮捕に向つたが逸早くるは職抗日の戸魁なる事實を

せる確證を得た日本憲兵隊はつたが該陰謀順が當地へ潜入

頻々

の内数英圓を密かに織洲に持昨年九月九白萬圓を印刷しそ

都市計畫法

机空測量法を採用

民政部目下準備を進む

れて入巓、大連、旅順、奉天

からざら存在でありまして

なく、アサビのやうに飾りで刺身のフマのやうに飾りで

飾りで

捌いてるたるので満洲のみの地の支那行商人に送ってい

中なかつた染干代

ソビエットものは赤の宣傳

新戦場にかでやきて見ゆ。 めはてに、 きのふの如く赤 はのと血潮したとるこ 地平を急ぐ騎馬の兵あ

前で風呂欧包一 目二十三番地安

五馬路池谷ユキエさ 七伊滕徽三郎

排を付けて居っ 市場信に依つて日崩

却付使の三段絹へで

ひろく大衆に讀まれた名著 「西部戦線異常なし」以上に

新 0

編館見のまちに待つた第十 一十八日奉天で

無險関であつたる助職東職で中韓民國から新京へ郵便物に中韓民國から新京へ郵便物に

さ岫巌の討腹而して熱河の聖僧り、一昨年冬は服部々降に

沿線小學氷上大會

参加の學校

國際的紙幣偽造の

陰謀事件發覺

一十五日解禁さる

昨年七月からの 瞬や列車 内の犯罪

件数は八十一件内窃盗六十九件数は八十一件内窃盗六十九 件である件が制品三件其他七

戦争文學の

ホッケー部から九名。フィギ 栄からはスピード部から四名 栄からはスピード部から四名 で行はれる第七回議職中等學

「長城を踰ゆ」出づ

和文電報取扱 方々に御注意の數々

傷病兵

五年以上二十一年未前の名

体險査規格を配の通

飑募手續其他

信兵たるこさをホー は別に適性檢査を加 お尻の御難

額に上る見込みなる。 荷田 とかられてのる。 荷田 といっといっという

ジャー代さんのお民に魅力を感びたものか、お尻のあっを追びかけて失禮千度にも接觸を試みました。自動車の方でははった6多が。押す力ごお尻を4さばされまして何んだもつけった6多が。押す力ごお兄からない。

「武器よさらば」の映画化



般日本で議無、支那に相互願(大連國通)大連水上署は過

味捕はる

自魁は日本人

村三犯何喜《 二七) 帧三名

ナー日午前十時頃通北縣 会署に達した情報によれ

の響きをはへで行く 信じたかつた、彼の願ひ よるらば」を生んで永遠 はこの奇しき物語「戦場 世界大戦の平和の鐘の音 透の駒鳥は何を囁いたか 柄院に駈けつけた時、窓 は適つた。が今ぎ彼が



















名書『第七天國』の監督ロマン派の巨匠 ノドルフマンジュー フランク、ボザーギ監督

ス

7

聲、日本版) 晝日



素の太吉は、能く小島三年の過 (百五十六)

知つてるたが、水茶屋奉公してる 『して見ると、あの矢來町の火事 る事だけは知らなかつた。 それが一度に知ったので、太吉 の散へ無心に行って、胸の一枚と 手合の許へ行って、野族で戦 彼以は、数らか節けて来る。 今度は統へ出る。江戸近在の親公 除ると取られる。交給と極まって してゐる。田舎へ行くと不思

役の邸にゐる位ちや、徹野の

三平が、交優か他に策励するので 直端島に處せられた後、お八面と

えに、罪上げる際にや行かね

あやさて こんな事で三五郎の消息は、今日 て進めば凱吹を奏すべき日 六白の人 障壁を打ち破り 寄獲なきが如き不安日の人 浮草の風に吹か

新京日日 清阳 近

科答

辯 及 保 證 融 選 別 扱 受 業

六五四

英國製高級煙草

=

代倉

國際運輸

新

に陥り易く破滅を楽たす日 大袈裟の事さへ 萬事婆縮して等 事は進んで吉

散係の矢は折れ

フラオー 八三三零級客級 (午前· 一大阪商

新京出帯所載が二二十六 株文出帯所載が四二二十六

一月二十日

H 其他洋服附屬品一切 紗

地

新京日本橋通廿五番 加藤洋行新京支店 電話三七三一番

卸商

電話二〇四二番 茂 洋

竹食

区村岡吳服店

个春流行新柄 豐富着荷陳列

電話二一三七番



蓮 定 分で 水にの大き一 さ化りり て如いな昨日 豫は候って 品及處。其 為 御 以" 告で間に近れカ 其。他"昨"要"來 仕る大き日。テ後の秋、顧の り。方はイ内。ク來に原 來: に 原記 候。愛。り化。外。ラ其。對。料。也。用。已。粧。諸。ブーしの 者: む 品 般 化 部 常 高 各を申すの粧、商がに騰い 位。得、未、情、品、品、最、に のさだ勢にに低る 御いる 値いは 對於對於價・拘禁 養は程に上さるましす格はら 成:度をなって 3 をず さの行き原は極い以。弊に 御"値"は 價**今流微"て 本語 快き上きるの日もの最に店と 諾を る上、迄:値"優"は を實等十騰; 恐。上。良; 隱沈 仰2行*數 を ~ を 品2 忍に 度で事。第一に相るし位数:こ三ク忍の値の え 位。 茲: さ三ク 忍。の値。のに決。回。ラびみ上。甚に

忍。分だの びとはよりては、十二 事。日多數 情,改称種品 御と正さを 野な仕。限な 被证候法候法 成是豫上尚舊 下。定、今元 こに回 の有流流 上之の

カテイ化粧品 中 太 陽

んだから、寒に由ったらを受響す(彼の角屋敷である大川敬之後のえ。兎も何な八重がゐねえといふ「て太分景氣がよさょうだ』

町奉行の手でも隣アねえが、ゐる 來たんだ。何とかして会井の壁で なるから、正面から乃公が飛込む 「特でよ、動手が二本差しは煩せ にや行かわえ……マア此處まで

能めた。 見るともなしに、其影響の行力を 其路へ近飛続が通った。本古は

すると、内崎の者だ! は、衆物の主が難であるかを突止

平に就て、お八重の代方不明 イヤ何らも続のねえ

門前に立った。

すが、他等のがへ立題られえと 意外にもそれは、大川家の適用

焼野で御催しを!! 焼、好感、サービス満點の!!

生地粤富人荷 御報次、見4時為報

手ながら余り期日の押し迫らぬ内に御下命の程

新京老舗のII|空町II|丁目

声店

モーニングラロック

御目出度う

古今末曾有の一大盛儀

即 17 一年来。命物。本材、化時肥料、工取投一體衛用品、電氣性他機械類一般、工豆其他豆類。大豆

表於

大豆油 社明三保保 張 山 社明三保保 張 山 大山 昌县井 遗 城

一件を、問題さうとは思ったが、 間の高盛から、山手を牛込か

で、直ちに関佐仲間の吟味を始め する必要がある。即う着へたの

風殺しに焼ひ上げた。

十 大 百

つて、シケ込んでゐるといる

の家へ、別館が行ったといふのがんだから、家に由ったらを長安了

醫師 堂 脇

資本 本金店

→ 東京日本橋通室町二丁目 → 東京日本橋通室町二丁目 → 季

番地

三井物産株式会

御來診の方にのみ治療致します ど。秘藥

· 前各項關係一切業務 一切業務 一切業務 一切業務 京支店 よせ鍋 鳥 0

告 第三回分として値段改正仕候で全商品中の一部十數種だけを

改善量は將來增加せぬき書

明したが九年度鎌算では遠

九千三

司閥を他全般的損奪問題に及り質問。次いでロンザン條約率豫算問題を具体的以字に基格的以字に基格の以字に基格の以字に基格を表示。

さ質せば、大角飾相は 充計費立案の特殊定されて 對外的事情に基く 第一次補充計畫は第一次補 答へた、次で内田信也市、 之に野し首相は

度したもので大体同様であ は海軍問題

日本は、 では政友會の内田信也若及び 自都相との間に補充計畫の内 中前の豫等會員で内田信也去及び 自都相との間に補充計畫の内 中前の豫等會員で内田信也氏 の これに議職して民政黨の中島 の 事等機管に次いで午後本會 中前の豫等會員で内田信也氏 の 市場等機管に次いで午後本會 の 市場等機管に次いで午後本會 は長族院に於ては本管職も要

海軍で九千萬國も増加した を断定し、更に進んで

補充計畫で

豫算總會秘密會

海相との問答

金解禁の氣運が

到來せば

衆議院で一高極

隨藏相答辯

課意は二十六日左の如く任命(東京國籍)外務省調査部名

任命較表さる

中には含ますさも目標

質上け変金は特別會計を 設定し緑人金に依る

外務 香肥官 水亭 孝策

日本橋通り

るに特をも將 は越定法來 本間しめ案の

・・金質上けに伸ふ扱矢は終 都置しれ

える。それより四十五分間之 成立し午前十一時半秘密會に 動語

も組織す

國の平價切下

問題

計畫に要する經費の内容を秘密質を開いて特來の補充 わが

さるなるが如何 さるなるが如何 さるなるが如何

海軍問題で

内田信也氏詰め寄る

きのふの衆議院豫算總會

議會愈よ本調子

、 (東京國通) 案構院本會議は 如きものを設けて國政を審議 の の高甲転中君音壇は村間額を の蜂香を助長するものである 主さして質問、それより政友 又城防外交方策について國内 の高甲転中君音壇は村間額を の蜂香を助長するものである であるが甚だ即白 の量刑の間に差異があるの理 のり、ここは反つて豫算分取り のり、ここは反つて豫算分取り に硬軟の所論あるが甚だ即白 のり、ここは反って豫算分取り にである。 である。 出、宮崎兩君起つ

船舶安全法 三月一日より

「東京國通」昨年體會を通過した船舶安全法の要旨は、船舶の航 を規定して居り、船員の副音 を対立人命の安全施数の必要 海力さ人命の安全施数の必要

時五十五分等列車で來京した職場の見趣を終へ同日午後六日最中間十七十六日最中間長事試 本衫山玉人氏(大阪本美人座主)二十五日夜來泉

五分分

課人。

十四歳より十八歳まで侵退 國華ホテル を 10四三階 北對於由東京~!! 八阪~!! 天草八 (祖學清津出明 一款赞引,東京へ国際列車 新宗 泉 北日本汽 泉泉

御

町野吉春長

吉 旅屋好三 三名

衛生工事。佯灰加工 備 行 請負 電話ニニ人三番・工場六〇二七番



苗州小島欽節 台の協議會に於ては右案を研一運動を開始するこささなさ言ひ、廿七日の蘇州木材組一発して築洲國政府館に経

なつた

して來たので、日流経済圏体 代表を訪問し右決闘女を手交 した

切下

げの程度

一月上旬に提案か

大使館一等審記官

船夫

中銀週報

自大同三年二月十四日

命場で部第三課長の得

命歐米島第二課動務任外務事務官四等

領事

告田丹一郎

さ脳部糾弾の白系路人側各幽 前十時頃よりハルビン全市に 體の大デモは怠よ二十七日午

の我議州國に安善幾業してる流識の悲境にあり、王道樂七 が。國を追はれて十餘年異 れの白茶路人は此の時さば るものと思想的には氷炭用容 旦つて舉行される事さなつた 確詰を減じ

新京木材組合が音頭取で

遂に烽火をあ

のでもるが。高洲側では右の場を開州に求めんさしてるち

調剤の山林を開発するためのがあるし、味に無整減な

廢に猛反對

の食大問題さなつてゐる刻下の食者を促し。內外北滿住民 **ソ聯側の牙切北壁理事者。** ・ 彼等は二十七日 いきり立つて當日を持盛してり反ソ聯の氣勢を舉けるべ 央に資せんさいきまいて**る**の急務經濟問題の急遽なる

は斡旋を考究したが、近く日機器しへ役を輸入阻止運動を

は日本産紡織語に對しい 少くして冷凍 000 米して桑港で米富業者で交渉 鶴販賣會社の澁谷信三郎氏さ

紡績操短に就て協議を貸した 化ざれた。四月以降六月迄の 他ざれた。四月以降六月迄の 入れ九白萬鰈こ决定今後も毎が、加盟以外の會社の鍵数を 擴張論有力 紡績操短率 く政府の方針は將來英米クロ以上に低り略々明白。斯の如 スその 他世界の り明示する心算だ

日

大連木材組合の主張するさこ

如き高率なる

叩年まであつた一立方米に

する必要があるが、現在の

何れにも理屈あり

れる今年は朝鮮網督所の英の消費量は三百萬石で、決のので、その心配はないの百萬石であったのが現在の消費量を例年の消費量は三百萬石で、決

結局二十萬石の不足で。その特越が四十萬石あるので

ソ聯飛行機

國境内に入る

我方から逆捻抗議

日

地朝鮮材を満洲國内に輸入し減少せるご需要激増のため價格鹽貴し、又供給不足を來してゐる。 そのため内

要を充すだけの輸入困難で 日の将来の増加する木材需

量は減少するのでは 國内の れ今後輸出

の 境 ボグラよりの情報によれば 逆途を喰はせる方針である と したご稱して我方に警告的抗 空飛行を貸したが他方嫡ソ東都樹 方は詳細に取調べ、ソ聯側に 操行機がソ聯領土上空を飛翔 騎兵あり、又飛行機一豪が低 体 のルンピン繊維 温網駐在の 二十一日午前一時頃ポグラ北 し

京

双方の言ひ分

してゐる木材伐の出し量し

敦化、間島の各木材組合に搬

燥短擴張論が有力であつた 利の懸念があるから据置乃至 にするさいム穏健なものさみが到来したならば、我滅も順か到来したならば、我滅も順定に依り安定し金解熱の氣運 645 一主要 的若人は協

米穀賣渡

東京戦通を完全に突破し 「東京戦通」農林省融表公定 「東京戦通」農林省融表公定 「東京戦通」農林省融表公定

沿同島技術處動務彰計縣参事任國都建設島技正(鷹任八等)

衆議院本會議

本會議

率の决定次第電業者代表冷凍制し瞬組合共反對なく出貨比

特任彰武縣恭事官(<u>萬</u>任八号)

營 毫

の高新

山崎齒科 中央通西公園前 時 間 療

N.2. 腦注會歸 *** 銀 隆 行 IE 連大店本 龍田安田寺田郷

島醫 院 白系各團体

門等斜齒

全 值 一 数 仓 三 数 图 一 图 5 一 图 5 一 图 5 一 图 5 个 开始 1 个 开始 图 5 个 开始 图 5 个 开始 图 5 个 开始 1 个

けふは大示威 北域ソ聯側首腦部糺彈で

對抗

哈市内一齊に呼應 再び手交 决議文を

出したる決議女を名宛が不備 脳部は去る二十三日日 講評湾 脳部は去る二十三日日講評湾 ださの理由で不部合にも突返

事務所出人新聞配者を料亭部 一十七日午後六時半から地方 年に招宴のはず 院木氏記者招宴

はおいます。 はおいます。 はおいます。 ない、これ、二三十回二十 では、これ、二三十回二十 では、これ、二二十四三十 では、これ、二二十回二十 では、これ、二二十回二十 では、これ、二二十四三十 では、これ、二二十二十二十 では、これ、二二十二十二十 では、これ、二十二十二十 では、これ、二十二十 では、二十二十 には、二十 では、二十 には、二十 では、二十 には、二十 に

至大同二年二月二十日抵帶發行題 は大体次の如き答辩をなし は大体次の如き答辩をなし は大体次の如き答辩をなし は大体次の如き答辩をなし

滿洲國辭令

へ鷹任

一既定 な針であつ

準にすべきか、磅を根據さ で、切下けの割合なごは色 で、切下けの割合なごは色 で、切下けの割合なごは色 り立ても可否を論語すべき 四等)派同署總務廳勧将任用

財政部屬官

任七等) 承同者總務驗勤務 中社 黑龍江省会署秘書官(薦

冷凍魚を増す

常業者近く協議

任八等)派同署總務廳訓務任果體江省公署總務廳訓務 任岫巌縣參事官(鷹任八等) 芳彦

の時こそ頭氏にはつき

任赤峰縣於事官(鷹代八等) 中中 献

日本で登場という。 八等)派向署呂政顧動務黑山轉任奉天省及署事務官(薦任 村上 輝文

派同署片政廳勤務 任熱河省公署技正(鷹氏七等) 轉任級中縣参事官(薦任八等)

學中馬公

任歌祭院審計官(鷹仟三等)派

同院番計形動務

宮崎農學博士

福田支店 場工庫大樂製高新

情は人の爲ならず

、情隊長をめぐる

涙ぐむ美談

全市奉祝大會は大同廣場で 市政署の奉祀方法決る

地方賜餐に

粉二千五百名

湾事情を調査タ刻編ますると 投票。岩淵内の會額所員で長安 股。岩淵内の會額所員で長安 股。岩淵内の會額所員で長安

の除員の単に感激して毎日病 中から糠金して氏を入院せし ウ、新京在郷軍人會でも。こ の除員の単に感激して毎日病

古野町エヌヤ洋服治から三十

新京驛は一杯

守中に

梅ケ枝町一丁目十二ノニ

話三七三四

店

一株二年旧 動物に服するれたものは三百名にも余

親切に感涙してふるではは人のでから氏い今連信情あるではれるので情は人の

柳里に帰郷せしめることと 一旅野 と引き受け を引き受け

旅客案内の

電氣擴聲機

新京にお目見た

きのふ見物人で大

新京地方事務中の卷

込んで見残りの商業生徒も

ナンバーワン

新京陽に始めてお目見えの版 二ク所にあょだけで納京のを 新京陽に始めてお目見えの版 二ク所にあょだけで約京のを 第条内戦気機整機を外観から三 らしく見聞する端人が周型に 中国優良機整機を外観から三 らしく見聞する端人が周型に 中ホーム、待合室に据つけ二 十五日から行つたさころなか 人間もすぐ据付けて都舎八個 大金を引出し 人目くゆき、上成績である してのたが附近には物珍 中本・ム、待合室に据つけ二 大金を引出し 人目くゆき、上成績である 大金を引出し 人目くゆき、上成績である 大金を引出し

日午後七時ごの同家の郵便的元秀(二二)一個名一は二十五元秀(二二)一個名一は二十五元秀(二二)一個名一は二十五元秀(二二)

ではないで思ひます。

大豆の

新榮奉継氏吉野町二丁目か

二蔵まで本人來談

電話三四一〇番

どうぞよろ 三笠町一丁

大典氣分 溢れる帝都の裝ひ

見して引續き捜査中である 選手の目にはいづれる必勝で が数で送るれたが三校 の選手見送用代表の挟移撃援

現金七百圓を引出してめらを 現金七百圓を引出してめらを をして**提**資中であるが光秀が に顧出た、同署では直に刑事

南嶺の退役少

佐△殿△

同じ筆法で達者

に稼ぎ廻る

そのまっ

一月廿七日 智位

軍艦旗は

nkに寄せる 周圍の同情

中市中で、同一手段で金を得 は密かに内値を進めてゐるが は密かに内値を進めてゐるが 現在はピルディング地数計畫 憲兵隊で活動開始

の、相手が退役陸軍少佐のた 選は、軍人の風上にもおけれ 選して強怒してゐるもの

夫の留力 家財

宅した夫が知り驚き二十六日

夫に甘い愛の巣

樣

一、金六百個也 金一千四百個也 金一千四百個也 一、金二百五十四百個也 一、金二百五十回也 一、金二百五十回也 一、金二百四也 一、金二十四百四也 一、金二百二十九國 一、金二百二十九國 一、金二百二十九國 一、金二百二十九國 一、金二百二十九國 一、金二百二十九國 一、金二百二十九國 一、金二百二十九國 一、金二百二十九國 一、金二百二十五日 一、金二百二十五日 信金融縣會社 松高高石岡小淵淵

全補調理師取締淵上推 司急等 1 大連病院入院中の處藥 石効 1 大連病院入院中の處藥 石効 2 大連病院入院中の處藥 石効

小學校は更に一十七十年の間するのがあった、なほか 協和公

の普及に

今十 | 六名(四。五年)が出続するこ室町 | 時の列車でも選手男女合して

質の活躍

市政公署で準備に 大陸春、冬配飯店への他で行び各官廳の官吏を加へるこれで各官廳の官吏を加へるこれでも上るが適當ないため各関係官廳の

一統計 が現はれて

即ち大同二年時十二月現在の辦事處数は卅八、分官数九百六で福洲國各地に散在十五百六十八人、大同二年七月から十二月弦に新設された辦事處は十二、命各現地の要求に雌じて日精學院

がける成績の一端さして次の がける成績の一端さして次の がける成績の一端さして次の がける成績の一端さして次の がける成績の一端さして次の がける成績の一端さして次の 昨年度中の總勘定

じて認める事ではつて民る 鮮語。露語等をも必要に應

であり同じくポスターは総計であり同じくポスターは総計

介謝絕

姓名在社

女中數名入用 與安省藝譜單御指定 與安省藝譜單御指定

通道ホテル

不統一であるのでこれを統 来の所教授は間修業年限等 来の所教授は間修業年限等

司法係では大困り

近く車隊、警官、滿鐵

けるの強し

譲借家 対域格議る の「足浜」水道以の他語 道は一切神師國に飲き居 が成める。

| 古野町||丁ロ桜|||五二 祝町||丁ロ桜||1円||| | 森野常太郎 田中 卓二 | 田中 卓二

実施ナガラ庁記リ兵争選供一於テ新申宴賞ス州キャス新夕 三興來住ノカ電器「居ラニー」も思ヒマ、労々試場人置 中二十九日 丁後六時(由帰側1) 場所 市 内 開 花 自動 六国 當日 時多ノ事 自シェルがカリッススカラニ十八日編キハガテ火の電話ニ デ甲込クダサイ

優勝カップ

新京日日新聞

は極地カルタ

までに図道事務所終理能代氏へ広部代表等二世間二五二〇

米田精参のことが組む簡単な夕食を選出けます)

61)

木定(決定大衆追つて發表)

日午後

一時より

お関際メートル原器の示す

尺。翻解しつつある

京都派美術展

飲は九千平方尺さし平方尺所の長の三分の一さす

ングラム原器の

全滿

かっ

會

大寺川〇分(高野川〇分)

丁下加茂特作

一郎兄弟

阪東協力

六時 Ost 五時五〇分 重等四〇分

いる画展すのはなかく一層の折れること共方向かい、多へはないかし

石(百册)

第一郎に掲くろ長の單位の

小(十升)

毫(斤の中幕金)

米の平方の雨積で

丈(十尺)

(世の千分の一)

(百尺)

五 日公布 滿洲國度量

立方米は米の立方の間積き

死後間

風開

14

0) 遭難 者

に別段の規定あるものは此一条 取引又は置業部令へし但し本法又はブートン法に依る 尺斤法さは左に掲く

登(尺の一萬分の一) を(尺の百分の一) 4(尺の百分の一) (立方米の百萬分の一) 方粉(立方メートル) (立方センチ

皇軍再度

掃匪工作が開始

吉林全省殘匪絕滅を期

ろものを謂ふ

育立)

東(千五百尺) 電(畝の千分の一) を(畝の千分の一)

方米の三百五十二 (キャグラムの五 の温度に於け 派遣選手

4 セッ

海の

五(グラム)

(斑の百草分

京

台(升の千分の一

郑

頃(百畝)

李皝に掲くる長の質位の平

廿七日封切

中華人アイフ

麗人 及川道子 主演 宇

ろしくお歌きの間をお願ひ申上げ はと明します不明書、師か、今後よ 世れて頭を下げ、然うして上げっ お望にてもまた動力派の顔を見 するとお世は『際に町を下げて

は何うしたものであらう。あの世

古みかはから

力の届之後の事に解人つたとした

中してるさす」

できな感び出した、お宅殿、秋のは其方におに落らのではない。 髪か 「あ」なうでござります。大阪 へのあるやうにまじくとみは 一一一一大は終しい、不思請な印命ち ので先づそれから嗅つけて耐からしたことがござります」 ではまたかいくれげ像が親らない 見 みまもつた。 は 「南ン海であらうが、唐神代では あらうが、お経典をかどわかした あらうが、お経典をかどわかした が 判りさへすりや、 関令脳の中に が が りさへすりや、 関令脳の中に でれてあったにしても、 就俗中に 一二百人替りの生命知らずの仲間を もつこの吉兵が、 盗み出すのに引を しつこの吉兵が、 盗み出すのに引を しつこの吉兵が、 盗み出すのに引を しつこの吉兵が、 盗み出すのに引

衠

からつて就から大阪へ下る近山の があつて就から大阪へ下る近山の 肝信用の中で、一人の肉長が一人 お記は、四を地道める一うにして 耐人の味を飲管つて聞いてゐた のでござりますかり ねばなりません ではまたかいくれげ衛が知らない った投稿が何うかほされました

という言つて数之水が吉兵所に話!

平方糎 (年方米の百分の一) (平方センチ (白平方米)

フ主演

●版本日撃驶全● ーパーノーリゲ スイヘッレ猛 のの あるの 動しくいを 戦線

「末は何らせっはりつけ往かる」

・醫学博士の問題・佐々弘雄・長崎伏麼殿の内幕・大庭雅

本印象 記 (陳哲宗教明教) 吉井

ブ

子関抗爭の内幕・安田徳太郎・疑獄問題の批判・高田義野

同時上映 「お定、このお方牌が鍛々お話してある謎の先生、蘇村県の もつて其能へ遭いつて来た。 話してゐると、女は茶をいれて の配見扱いで置た。このお定職なりを受けたものちゃし

廿六日更ブロ 度通り合した心が切けてやつたの た似物で死うとしたところを恰

があのしい、こうしたことになり したのでごさります」

もずつと (強い信使になつてお いっぱい。 安慰の夏お高端から洗 (はい。 安慰の夏お高端から洗 で然うであつたか。然ろしても

せまいものでこれのますと お定は言った。 「心のしつかりしたところはそ

中五議會の展望(神経の大学を)野村秀雄の東京の成立……牧野輝智の成立を教養に発表しているでは、大熊信行・シースの政治理念(元のな教養に発表しているが、)杉森孝太郎・大熊信行・シースの成立の大熊信行・シースの政治の第411 大阪

論・今中次暦 電が発生が? 電は何處へ行く 機は何處へ行く

榮河 治 郎合

人つきてそん本種を指め、一堂を三百長の一段が参考とない。同事の場合の構成を動員してできない。同事の構成を動員している。同事の場合を動員している。同事のの情報を動員している。同事のの情報を動員している。

とてるた数が広が着めてやったの がこのお定なのである。」 助けてやつたのであつたが、それ 方にめぐり合ふものやら、世間は 「何處に何う言ふ酸で切つたお

やうにして購み込み、その であると目立て、るに 一行く道中であると目立て、るたっ

吉兵衛の隠れ家(四) 生 0

し昨日死體發見された附近で 質除は廿五日朝來活動を開始

ルナイョナ マョカリカスラ ニニニニエ五三

三名發見

を終みしたところをその家の歌が 真がはつづけた。 む、物質は揃へられた上、大阪の 御の客が脳め、個ち大麻ぎとなつ を、縁然の政化を高野山へ行めに手で河へ投げ込まれやうとしたの

日; 聖女 部館平

| 特八十銭 丸京京学 中 央公論村發行 の新華望 フランス……佐藤 朔

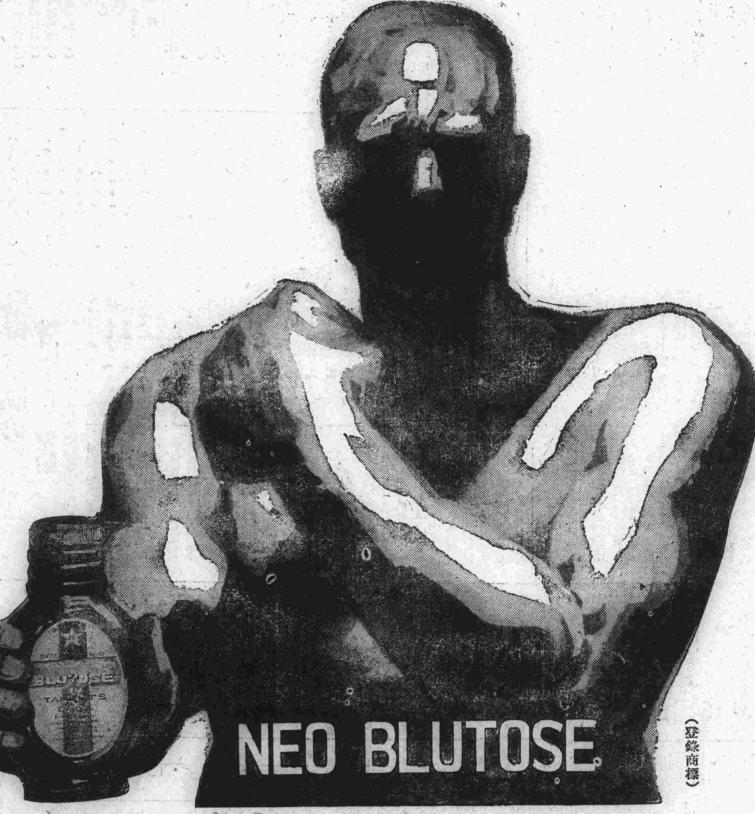
ざんげ、字野千代

の偉容

○ 本 の 影 を 路 む 者 新明正道 ○ 本 の 影 を 路 む 者 新明正道 ○ 本 の 影 を 路 む 者 新明正道 は現りて、勝本清」館、街の人物評論 の法律の身の上明談、本村儀作の名式受引。 の法律の身の上明談、本村儀作の名式受引。 の法律の身の上明談、本村儀作の名式受引。 東京を 東京を 東京を 東京を 東京を 法の改り大の事では 自分の關係した事・森田草平 の場所にた事・森田草平 の 野土豊一腹 即 おもる 谷崎潤一郎 ○北支・満洲・朝鮮……柳澤 健意 書雅記……小泉信之 無其職職 のカイゼル 傳 式場隆三郎 なき詞所行・ さてぞの とを 様で 様と 単一 単一 で は 年 が の植地、藤瀬助香郷また粉々!! 伊藤秀五郎

素晴しい本が 出る(世二日發賣)

ちよつと待て 新江さしめた徐快極る福音物學説! 中央公諭社出版部 眞の人生は四十からた、全歐米人を中央公諭社出版部 大學教養とトキン著大江東一譯 定員・〇〇 質問れの選れる 人。 生 は か



は持保康健 性中が液体

全前産後の衰弱 全前産後の衰弱 産前産後の衰弱 産前産後の衰弱 産前産後の衰弱 産前産後の衰弱 症婦人血腺病神經 精力減退 大血の道 対点 の道 ヒステリー

代込 進 次 星第

NB 101

主

三百六十錠入) 藥價低廉 一円八十曳 一回四錠

な成ネ全る發もに如らをオと 生そは何 し促プな若すの種に め進ルりしる反々して 住造 り 身類こを塩体 康血ゼ体がの變類液 体環錠虚不酸化がの に流の弱足性せ適中 養るの障爲内有か の配不害にでさる云 給に 起体絶 と依骨るにえを となり 筋肉油 総本では 生物 は 一番 を は 類を できる は 類を できる は 類を できる が できる できる できる できる は 類を できる が できる できる は 類を できる と できる をてすがつてり形 強骨る不て酸來質

と能萬食肉 化變の体肉

質の脳なるした液 し疲盗ご結易すを 新勞血 果くに濃 し鮮る 血と勞すめなもと壓なさる るのスはりせが

か血がテ著 る脳 ▲液ありし精とに るをる | く力忽昂

錠ゼードルブ分次

立主しるコ樞造に各 病薬たオレ機血貢帝 院ネもツス關促献。 器才のセテの進し大 家プでイリ强のつき かル薬ンン健造が らト理 を薬血あ院 盛 | 學動含レホる指 んに處方されて居る状態である が性燐酸カルシウムを含む骨質成 が性燐酸カルシウムを含む骨質成 が性燐酸カルシウムを含む骨質成 が性燐酸カルシウムを含む骨質成 がにも 生物學的にも在來の薬剤 である を対象をがいまして新し を対象をがいまして新した。 である んゼ的物むチル補定

各な三成にレ末多 地る大を重イ化治 官も配促要ンし治 公の劑進な 之療 私でをする脳に界

程能効は薬 はとぬか効

言さタやあたとのよ 別れも他る處臍よく をたンの位がをう聞 を選ぶことが一番捷徑であるが之は全く盲信の免養養素の代りは動まらず 既にかの免養素の代りは動まらず 既にかの発養素の代りは動まらず 既にかの発養素の代りは動まらず 既にかの発養素の代りは動まらず 既にが 酵素は支那では遠く千年以前の知るに過ぎない 要するに疑ばない時間く言葉であるが之は全く盲信の 事けにい前酵確の 門で吾 か素か結 家の々又ら な果 でた人ど麴や榮選

叮修道阪大 店商吉友澤藤

完來をる中